

令和八年度（前期日程）

国語

（現代の国語・言語文化・論理国語・古典探究）

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二、この問題冊子は、十六ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 三、すべての解答用紙に受験番号を記入しなさい。
- 四、解答は、すべて解答用紙の指定のところに記入しなさい。
- 五、解答用紙はすべて机の上に出しておくこと。机の中に入れてはいけません。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合で本文の一部を改めている。

著作権の関係上公表しません

著作権の関係上公表しません

著作権の関係上公表しません

著作権の関係上公表しません

著作権の關係上公表しません

[注]

- 1 サブルーチン——他のプログラムからよび出されて、あるひとまとまりの処理を行う副プログラム。
- 2 アルゴリズム——ある特定の問題を解いたり課題を解決したりするための計算手順や処理手順。

問一 二重傍線部①〜⑥のうち、カタカナは漢字に、漢字はひらがなに改めよ。

問二 波線部(ア)「然るべく」、(イ)「際立った」とあるが、それぞれのどのような意味か。簡潔に答えよ。

問三 空欄

A

く

D

に入る最も適当な語句の組み合わせを、次の①〜⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| ① | A | ナラティブ | B | ストーリー | C | ナラティブ | D | ストーリー |
| ② | A | ストーリー | B | ナラティブ | C | ストーリー | D | ストーリー |
| ③ | A | ナラティブ | B | ストーリー | C | ナラティブ | D | ナラティブ |
| ④ | A | ストーリー | B | ナラティブ | C | ナラティブ | D | ナラティブ |
| ⑤ | A | ナラティブ | B | ストーリー | C | ストーリー | D | ナラティブ |

問四 傍線部(1)「この程度の抽象は昆虫でも可能である」とあるが、どういうことか。「抽象」の意味を明らかにした上で、簡潔に説明せよ。

問五 傍線部(2)「おそらく人間の言語の起源はそこにある」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- ① 人間独自の抽象としての言語は、狩猟生活をしてきた人間が「向こうの草原のマンモス」、つまり「現実を離れた虚像としてのマンモス」を、身ぶり手ぶりによって伝え始めた段階で、始まったということ。
- ② 人間独自の抽象としての言語は、抽象が一般的な「マンモス」という概念、すなわち、洞窟壁画に描かれたマンモスのような「特定の個体を示すイメージ」を、構築し始めたときに、生まれたということ。
- ③ 人間独自の抽象としての言語は、抽象が「向こうの草原のマンモス」といった現実から離れ、あらゆるマンモスを示している、一般的な「マンモス」という虚像を構築し始めたときに、生まれたということ。
- ④ 人間独自の抽象としての言語は、人間が、マンモスなどの動物を洞窟壁画として描き、その動物を実際に捕らえて食べたという、現実の行為を確認するようになった段階で、はじめて生まれたということ。
- ⑤ 人間独自の抽象としての言語は、人間が、身ぶり手ぶりなどの動作によって、今その場所にはいないが、確かに他の場所にいた、現実のマンモスの存在を、伝え始めた段階において、始まったということ。

問六 空欄

E

に入る最も適切な表現を、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- ① 輪郭を描くことの不確かさと表現の揺らぎ
- ② あくまでも現実拘束された具体性の限界
- ③ 場と場の境界を抽出した後の残余物の存在
- ④ 目の前の存在が持っている多様性と可能性
- ⑤ 抽象的な空間における象徴的な存在の輪郭

問七 傍線部(3)「言語は世界を認識するためには必要ない」とあるが、どういうことか。本文の主旨に沿って、簡潔に説明せよ。

問八 傍線部(4)「この徹底的な抽象化によって、逆に現実世界を記述し、予見することが可能になった」とあるが、どういうことか。わかりやすく説明せよ。

問九 傍線部(5)「創造の瞬間には言語を離れている」とあるが、なぜか。「創造」についての筆者の考えを明らかにした上で、わかりやすく説明せよ。

問十 傍線部(6)「それが人間の傲慢を防ぐ」とあるが、どういうことか。「傲慢」になった理由を明らかにした上で、わかりやすく説明せよ。

問十一 本文の主旨に合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選び、それぞれの番号を記せ。

- ① 人間の特徴は、言語や数学といった世代を越えて共有できるモジュールを生み出し、世界を把握するモジュールの蓄積を可能にした点にある。蓄積されたモジュールによってこそ、人間は変わり続ける世界と触れ合った時に創造性を発揮することが可能である。
- ② 人間の特徴は、変化し続ける個人のモジュールとともに、言語という抽象性の高いモジュールを生んだ点にある。言語は世界を抽象化するだけではなく、他者への伝達も可能にするため、概念化された世界認識を他者と共有する上では必須のモジュールである。
- ③ 人間の特徴は、現実を抽象化した虚像を構築した上で、現実を画定するモジュールとして概念を形成した点にある。概念は直観により形成されるが、固定的になりすぎると現実世界の把握に強い偏りが生じるため、現実を柔軟に捉えるモジュールも必要である。
- ④ 人間の特徴は、言語というモジュールを使用して現実世界から離れた抽象性の高い概念を獲得した点にある。人間がひとりで思考する作業を始めたときに成立したと考えられる言語は、膨大な情報のなかから特定のものを識別し、境界を作る際に必須である。
- ⑤ 人間の特徴は、様々な物語モジュールを有するとともに、世界に働きかける想像性をも有する点にある。人間には、変化する世界に対し予測しながら想像で働きかけ、その結果に応じて、新たな想像で現実世界を捉え直すことで自身を創るという特質がある。
- ⑥ 人間の特徴は、言語や数式のような抽象的なモジュールを構築した点にある。特に数式の抽象度を徹底的に高めることは、現実世界を記述し、予見することにつながるだけでなく、創造性をも高める可能性があるため、数式等の記号を含む言語は重要である。

国語の試験問題は次頁に続く。

二

次の文章は『源氏物語』を愛読している女房たちが集まり、語らっている際の出来事を記したものである。これを読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係上公表しません

（『今物語』による）

〔注〕 1 内——宮中。内裏。

2 弁——弁官。太政官の職員。重職で、名家の人が任じられることが多い。

- 3 鳴く音な添へそ野辺の松虫 —— 「おほかたの秋の別れもかなしきに鳴く音な添へそ野辺の松虫」(『源氏物語』賢木さかき)の下の句を指す。女房たちは、この和歌を口にするので、扇に描かれている人物は光源氏であると示唆している。
- 4 これはいかに —— 「この扇をご覧になりませんか」。女房の発言。
- 5 人にくく、優なる気色にて —— 周りの人がうらやむほど、上品な様子で。
- 6 源氏 —— 光源氏のこと。光源氏は弁になったことはない。
- 7 下襲の尻 —— 「下襲」は男子が参内の際に着用する束帯の内着。「尻」は下襲の後ろに引く裾の部分。弁の尻は短かった。
- 8 うちつけに —— にわかに。たちまち。
- 9 えさらぬ —— 立場上、返答することを避けられない。
- 10 近衛院の御母 —— 鳥羽上皇の寵愛を受け、近衛院(天皇)を産んだ美福門院得子のこと。
- 11 督殿の御局 —— 「近衛院の御母」同様、院の寵愛を受けるほどの高貴な女性。

問一 『今物語』と同じく鎌倉時代に成立した説話作品はどれか。次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記せ。

- ① 『海道記』
- ② 『古今著聞集』
- ③ 『山家集』
- ④ 『方丈記』
- ⑤ 『無名抄』

問二 傍線部(1)「大納言なりける人」とあるが、二重傍線部(a)～(f)のうち、この人物を指しているのはどれか。該当する記号をすべて記せ(順不同)。

問三 波線部(イ)「主ゆかしきものかな」、(ロ)「いでや、ことわりなるべし」をそれぞれ現代語訳せよ。

問四 傍線部(2)「短かるべきかは」という発言はどういうことを意味しているか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記せ。

- ① 反語の言葉を使うことで、たしかにこの絵は光源氏を描いたものであると、周りの女房に賛同の意を示している。
- ② 疑問の言葉を使うことで、短い裾を合わせるのが光源氏の好みの服装だったと判断する周りの女房を疑っている。
- ③ 反語の言葉を使うことで、光源氏を描くつもりなら裾を短くするべきだったと、周りの女房に助言を与えている。
- ④ 疑問の言葉を使うことで、もしこの絵が光源氏でないなら誰を描いた絵だったのかと、周りの女房に尋ねている。
- ⑤ 反語の言葉を使うことで、裾を短く描いているならば光源氏のはずはないと、周りの女房の意見を否定している。

問五 傍線部(3)「堪ふべくもおぼえざりければ」とはどういうことか。わかりやすく説明せよ。

問六 傍線部(4)「その後はたぐひなき物思ひになりにけり」とあるが、なぜそのようなになったのか。わかりやすく説明せよ。

問七 傍線部(5)「おほかたの秋の別れもかなしきに鳴く音な添へそ野辺の松虫」とあるが、この和歌の意味を簡潔に説明せよ。

問八 本文の内容を説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記せ。

- ① 宮中に住まう女性を一目見て恋に落ちた男が、熱心に彼女を口説いたところ、恋が成就したという経緯が語られている。
- ② 『源氏物語』に造詣の深い女房たちが激しく議論しているのを耳にして、その熱の入り具合に圧倒される男を記している。
- ③ 宮中で女房たちが語り合う中、控えめながらも正しい判断を示した女性に対して、恋心を抱いた男の心情を描いている。
- ④ 女性たちの物語の解釈に疑問を抱いた男が、同じ意見を持つ人物と出会って、自説に自信を持った過程が書かれている。
- ⑤ 下の句を聞いてその上の句を答える遊びに興じている宮中の女房たちを見て、微笑ましく思う男の様子を描写している。

国語の試験問題は次頁に続く。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

著作権の関係上公表しません

(『春秋左氏伝』襄公十五年による)

〔注〕

- 1 子罕——人名。宋の国の重臣。
2 玉人——玉を鑑定し加工する職人。
3 稽首——頭を地につけて礼をする。
4 請死——ここでは「請_レ免_レ死(死を免れむことを請ふ)」の意。
5 寘——置く。
6 攻——みがく。

問一 二重傍線部(ア)「弗」、(イ)「敢」、(ウ)「若」は、ここではどのように訓読するのが最も適当か。その読み方をそれぞれ平仮名で答えよ。ただし、現代仮名遣いでもよい。

問二 傍線部(1)「若以与我、皆喪_レ宝也」とはどういうことか。「皆」の内容を明らかにした上で、わかりやすく説明せよ。

問三 傍線部(2)「小人懷璧、不可_レ以越_レ郷」について、以下の設問に答えよ。

- (1) この文を書き下し文に改めよ。
- (2) 「小人」の意味を明らかにした上で、現代語訳せよ。

問四 傍線部(3)「使玉人為之攻之は、」ぎよくじんをしてこれがためにこれををさめしめ」と訓読する。解答用紙の白文に訓点(返り点・送り仮名)を書き入れよ。

問五 傍線部(4)「富而後使復_レ其所」とあるが、どういうことか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、その番号を記せ。

- ① 玉人が璧玉を持ったままだと盗難に遭うのではないかと考え、磨いた玉を売ってから、村に返してやった。
- ② 宋人をその郷里に帰らせるため、玉を売って富ませ、旅費を得させてから、再び役所に来させようとした。
- ③ 玉を持った宋人を自分の郷里に住ませ、玉人に磨かせた璧玉を売ることで、郷里を復活させようとした。
- ④ 玉人が磨いた璧玉を奪い、自らの財産に替えてから、玉人を追放し、住んでいた村に追い返してしまった。
- ⑤ 宋人が玉を持っていると命が危険なので、磨いた璧玉を売って富ませた後、住んでいた村に返してやった。